

「いのち」を生かす

(原文)

岸岡 弘奈 (16 歳)

埼玉県

本庄東高等学校

私は「いのち」を「生きている全ての人間に与えられたもの」「無条件に与えられた生きるためのチケットのようなもの」だと考えます。そして「いのち」にはいつか終わりが来ます。だからこそ、与えられた「いのち」を終わりが来るまでどのように生かすかが私たちが生きていく上で大切なことなのではないかと思います。

「いのち」を生かす。それは与えられた「いのち」を終わりが来るまでむだにしないで人生を歩んでいくことだと私は考えます。

夢や目標に向かって努力しながら生きていく人生、夢や目標を持たずに投げやり生きていく人生、どちらも「生きている」ことに変わりはありません。しかし、前者と後者では同じ「生きている」でも意味が大きく異なります。それは、「いのち」の生かし方が違うからです。生きているもの全てが無条件に持っている「いのち」だからこそ生かし方が重要なのではないかと考えます。

私は 1 年前曾祖父を亡くしました。曾祖父は 95 歳でした。とても元気で会いに行くといつも嬉しそうに私の名前を呼び、たくさんのお話をしてくれました。亡くなる 1 週間前に会いに行ったときはとても元気で、またすぐに会えるだろう、そう信じていました。長生きするだろうと思っていた曾祖父の訃報を聞き、「いのち」とは儚く一瞬で消えてしまうものだと改めて実感しました。それと同時に今を生きることの大切さを曾祖父から学びました。もしかしたら明日私は事故で死んでしまっているかもしれない。もしかしたら明日……。と考えると今この瞬間を全力で生きることが、今を生きている私たちが「いのち」を最大限に生かす方法の一つなのではないかと思います。

生きたいと思う人がいる一方で、自ら命を絶ってしまう人もいます。日本人の 20 歳から 39 歳の死因の第 1 位は自殺によるものだそうです。また、いじめなどの学校関係トラブルが原因による未成年者の自殺も後を絶ちません。時々自殺してしまった人に対し、「いのちをむだにしている」などと責めるような言葉を耳にします。私はそれは本当に正しいのかと疑問に思うことがあります。確かに、自らの命を絶つという行為は、まだ生かすことのできるいのちをむだにしていることとなります。しかし、自殺してしまった人だけがいのちをむだにしているのでしょうか？ その人の周りにいた人たちは助けてあげられなかったのでしょうか？ もし、助けてあげることができたのに助けてあげなかったのであれば、それは自殺してしまった人の周りにいた人たちも「いのちをむだにしまった」

ことと同じなのではないかと思います。困っている人の全てに入り込み、解決してあげることは難しいかもしれません。しかし、困っている人がいたら手を差し伸べてあげる。いじめを見つけたら傍観者になるのではなく助けてあげる。そのようなことは私たちにもできます。少しの勇気が一つの「いのち」を生かすことにつながるかもしれません。人間は独りでは生きていけません。誰もが誰かの助けを必要としています。助けを待っている人がいたら助けてあげる、助けてほしいときは助けを呼ぶ。お互いがお互いを助け合い、尊重しあう、そして、自分にできる精一杯のことをやる。これらも「いのち」を生かすことの一つだと思います。

高校 2 年生の私には今志望大学があります。今の私は志望大学に合格するのは難しいかもしれませんが。2 年後の春、笑顔で志望大学の門をくぐれるように「いのち」を生かして目標を達成できるように頑張りたいです。

せっかく「いのち」をもらってこの世界に誕生したのだから、その「いのち」が尽きるまで最大限に生かし、精一杯後悔のない人生を歩んでいきたいです。